

第 10 巻 編集後記

我々が新たに直面したコロナ禍という時代は長く歴史に語り継がれていくでしょう。我々は歴史的パンデミックの証人となりました。そして、24 時間 365 日、日常生活から患者安全のために感染対策に身をおいています。著者の皆様、査読者の皆様、そして編集関係者の皆様、いつにも増して大変な毎日の中で、論文作成の労を担っていただきありがとうございました。診療部、理学療法課、言語療法課、作業療法課、薬剤課合わせて 12 編の論文が掲載され、今後本雑誌を通じて多くの医療者の目に触れることになります。

臨床医学教育の父ウィリアム・オスラー博士は、医療者へ向けた講演における「叡智と知識は別のもの」という話の中で、「知識が宿るのは、他人の考えが詰まった頭。叡智が宿るのは、自分自身で考える心。」という一節をよく引用していたそうです。これは EBM に向かい合う姿勢をよく表していると思います。今回の著者の皆様は、論文化したテーマに関連する参考論文を誰よりも熟読された方々です。オスラー博士は、論文精査の目的について、第一に「論文の内容とそこに達するまでに取られた方法について最新の知識に触れること」、第二に「扱っている症例を理解し分析すること」と述べて、第二の目的がはるかに重要だと強調しています。私たち医療者は常に患者一人一人にこの作業を繰り返しながら、日々悪戦苦闘しています。そして、多くの先人が労苦を惜しまずに提供してくれた叡智の結晶を利用させていただいています。今回恵寿総合病院医学雑誌に報告された 12 編の新たな叡智が多くの患者や医療者に役立つことを切に願います。

最後に、コロナ禍の医療現場は日々過剰なストレスを我々に課していますが、皆さんの叡智を結集することによって一日も早く過去のものとなる日が来ることを祈願します。

2022 年 3 月吉日

第 10 巻編集責任者

恵寿総合病院 家族みんなの医療センター センター長 新井 隆成